

●令和5年度「将来の公共施設・学校・公園を考える意見交換会」意見・質問一覧表

●概要

開催日	ブロック	開催場所	意見交換会対象町内（自治）会名	役員等参加者数
令和5年8月28日（月）	E	葉山町役場	木の下、つつじヶ丘、東伏見、牛ヶ谷戸、向原	14

●意見等一覧表

学 校 施 設				
NO	ブロック	意見・質問	内 容	回 答
1	E	学校整備に係る予算	1年間の町予算は約100億円と説明があったが、その中から学校再整備にお金を充てていくのか。	約100億円の中には国庫補助や県支出金があり、1年間の町予算を超える資金が必要になる場合は基金を活用することとなる。それでも不足する場合は、町債を活用することとなるが、あまり使いたくない。借金をすると今の子ども世代にも負担が生じるので適正な財政管理をしながら検討しているところである。
2	E	通学学区のねじれと学校施設の老朽化	木ノ下地区には葉山小学校を卒業すると南郷中学校に通学する生徒がいるが、町からのケアが少ないと保護者から声を聞く。南郷中学校はトイレが不衛生であり、体育館は雨漏りしている状況という話を聞いている。	ねじれ学区の問題は、子育て世帯を対象にアンケートを実施したほうがよいのか、しばらくの間は通学する中学校を選択できたほうがよいのかなど考えており、子育て世代のデータも参考にしながら引き続き検討していきたい。体育館の雨漏りはすでに解消しているが、トイレ工事には1校あたり約1億円かかり、次は長柄小学校を実施する。順次対応している。
3	E	中学校施設のエレベーター設置	中学校給食が開始されたが生徒が3階まで持ち運んでいる。エレベーター設置の考えはあるか。	生徒による持ち運びは、全国的に標準的なやり方であると考えている。

堀 内 会 館				
NO	ブロック	意見・質問	内 容	回 答
4	E	堀内会館の位置づけ	「堀内会館」は町の公共施設に該当しないのに、なぜ意見交換会では取り上げられているのか。堀内会館は町の公共施設ではないが、地域のために利用しているので検討が必要である旨を説明しないと理解しにくい。	持主不詳のため、町の公共施設とは言っていないが、これまで管理方針について先送りしてきた経緯がある。そのことも踏まえて意見交換をしたいと考えている。

他の公共施設

NO	ブロック	意見・質問	内 容	回 答
5	E	稼働率の考え方	町のホームページには公共施設の稼働率が施設ごとに掲載されており、子育て支援センター（ぼけっと）の利用率が低かった。しかし、町民アンケートを実施した際に、リピーターが多いことを承知している。このことについて稼働率だけでは判断できないことをどのように考えているか町民に詳しく示してほしい。	町としては、稼働率が低い施設は不要であると判断するつもりはない。本日は情報共有の場として地域ごとの施設を示したが、次のステップでは施設ごとの話もしていきたい。
6	E	子育て世代の意見集約	子育て世代の意見を集約してほしい。特に子育て支援センター（ぼけっと）の存在には助けられている。	子育て支援センター（ぼけっと）の機能を場所を移せないかなど庁内で議論している。また、学校で学童が実施できないか等の検討も進めている。
7	E	堀内いこいの家の方向性の記載	堀内いこいの家は、「廃止」という一種の方向性を意識づけているようであり、その段階で話をされても、総論賛成、各論反対となってしまう。例えば、小学校の空きスペースを使えるような話があれば前向きな考えになる。	築50年経過しており、いずれかのタイミングで廃止を検討することを資料に記載している。今は「現状維持」が基本となる。ただし、木造家屋の2階建てでどこまで維持できるか不安があり、別の場所に同機能を持たせられるかという議論が必要となる。今すぐに廃止することを考えているわけではない。

公 園

NO	ブロック	意見・質問	内 容	回 答
8	E	（仮称）木の下公園のトイレ設置と維持管理	「（仮称）木の下公園」にトイレ設置と記載があるが、維持管理方法を知りたい。草刈は町内会だけではやりきれないと思う。	仙元山のトイレは老朽化しているので、「（仮称）木の下公園」に移設することを検討している。具体的な管理方法は決定していないが、例えば木古庭公園は木古庭町内会にトイレを管理してもらい、町から謝礼を支払っている。花の木公園は町が管理し週2回業者に清掃を委託している。
9	E	あじさい公園の形状	あじさい公園の形が不便な理由は。	現在の形になったのは今から15年ほど前になる。もともと一般の方から土地を借りていた。過去には、斜面が急なのでスロープを付けて整備することも検討していた。
10	E	仙元山近隣の草刈り	東伏見の西公園から仙元山を上がるルートは、公園を含めてものすごい量の草が生えている。年に2回自治会で草刈を実施するが夏場は暑さが厳しい。シルバー人材センターへの作業依頼も断られている状況。自治会だけの公園の整備には限界がありやり切れない。町内会ではどこまで担うべきか町の考えを聞きたい。	町が管理していない場所については、町で対応することができない。看板の設置等の要望があれば個別に相談してほしい。
11	E	西公園の草刈り状況	西公園の草刈の対応状況について。	シルバー人材センターに作業委託しているが、従業員の高齢化が進んでおり作業できない場所もあるため、令和5年度は一部を民間業者に委託した。
12	E	公園維持管理費の内訳	公園を維持管理するのに年間約3,000万円ということだが内訳の詳細は。	遊具やフェンスの設置、枝払や点検など。町との協定により各町内会にもご助力いただいている。

そ の 他

NO	ブロック	質 問	内 容	回 答
13	E	方向性決定に向けたプロセス	行政が考えている方向に対して町民が意見するやり方ではなく、町民と一緒に作り上げるほうがよい。	町としてどうするか結論が出ていないので、皆さんと議論し100周年には一定の方向性を出したいと考えている。
14	E	町制100周年と公共施設の関連性	町制100周年と公共施設の維持管理に何の関係するのか。時間的なターゲットを置くことは必要だが、町制100周年にする理由があるのか。行政がやりたがっている方向に町民を導いているように思えてしまう。町制100周年はあくまでも目安だと説明すべき。	マイルストーンを置かないと物事が決まらないという経験をしてきた。堀内会館の問題や旧役場跡地の活用を長年の間これまで先送りしてきたが、それが立ち行かない時代になってきた。意見交換会では皆さんと議論し、100周年には一定の方向性を出したいということをお伝えしたい。そのタイミングでまとまらない場合は、何がまとまっていないかを洗い出す必要がある。建物も壊れてくるので先延ばしできない。将来の町の子どもたちのためにも今取り組まなければならない。
15	E	稼働率の算出根拠	令和4年度第2回葉山町公共施設等総合管理計画策定委員会の資料には主要なコミュニティー施設の稼働率について記載があり、真名瀬会館が5.4%と最も低く、資料からは施設が不要であるように見えてしまう。稼働率をどのように算出したのか。	全国的な調査方法に基づき、利用者が使用していない室場は稼働していないこととして算出した。
16	E	会館を利用しない理由	稼働状況調査において、会館を利用していない人はどのような理由だったのか。	利用を必要としないと回答した人が7～8割程度だった。
17	E	意見交換会の開催方法	町内会からどのような話をしたらよいのか分からず、地区ごとの意見交換会が行われると考えていた。 (他町内(自治)会も同様意見)	町からのアナウンスが足りず申し訳ない。
18	E	建築土木の適正金額	建築や土木にはどれだけお金がかかるものなのか疑問がある。例えば、旧役場前バス停の上屋の整備には約16,000千円かかっている。これは相応しい額なのか。	例えば、南郷上ノ山公園のグラウンドを全面改修すると約1.8億円必要なので予算上厳しく、表土だけで300～400万円、メンテナンス機械の導入により200～300万円、作業員を雇用し予算規模を考えながら対応した。
19	E	福祉文化会館の予約方法	福祉文化会館の練習室を借りるための予約は電話でしか受け付けてもらえない。横浜市はオンライン上から予約が可能。	南郷上ノ山公園のテニスコート予約は令和5年9月から電子化する予定であり、福祉文化会館は令和6年度からオンラインでの予約を開始する予定。しかし、これまでどおり福祉文化会館に並んで予約する方法がよいという声もある。
20	E	コミュニティバスの導入	交通アクセスには不便を感じ、将来的にコミュニティバスの導入を検討するのはいかがか。人口減対策が必要ではないか。例えば明石市や流山市は対策により人口増加している。	コミュニティバスの導入には懸念がある。福祉バスは費用がかかることから頓挫してきたこともあり、タクシーの補助券を発行して対応している。逗子市はバスを購入した。京急バスの運賃が上がる話も聞いているので町は京急と話し合いをしたい。町を周遊したり、バス停から登り坂がある地域など、バス停から先のことも考えなければならない。

21	E	町内のごみ箱設置	町中にはゴミ箱を設置すべきではないか。全国的に設置は減少しているが、町が管理するゴミ箱を復活させてもよいのではないか。	以前はゴミ箱を海岸に設置していたこともあったが、現在は戸別収集により町民にも協力してもらっていることもあるので難しい。そのため、NPOと海の家の協力のもとで有料回収を実施している。
22	E	補助金活用の仕組み作り	環境課の補助金（「クリーンはやま実践活動団体交付金」）には、令和5年1月から「町有緑地からの草木の越境を防止するための草刈り・剪定活動」が補助対象に加わった。このような補助金が活用できる仕組みを全庁的に導入できないのか。町民と行政による協働で考えられるほうがよい。町民から町への愛着が増すことに繋がると思う。	この補助金は、地域の声を反映することにした。全庁的に事業を拡大できるかは検討していきたい。
23	E	広域的な施設利用	「公共施設等総合管理計画策定委員会」での定義書には近隣自治体との広域的な施設利用に触れていないが、そのような考えはないのか。	町民健康課では町内在住者（18歳以上）には「健康増進施設利用券」を配布し、逗子市や横須賀市の施設を利用可能とし、このことは広域的な利用の考えになる。一方で町内にプールを設置してほしいという声はあることは承知している。
24	E	空家対策	堀内地区は30%ほど空き家があると聞いている。空き家対策により町の活性化に繋がられないか。	管理不全の空き家を減らしたい。町内の空き物件は少なく、空き家だとしても手放したくない人がいる。人口減少だが世帯数は増加しており、50～60代の夫婦の町への移住が増えている傾向にある。